

実施クラス	実施日	
5 歳児 はくちょう 組	6 月 18 日 (金)	

● 実施計画

活動テーマ		
光であそぼう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
光や影の言葉や動きに興味湧き、活動に対し次は何をするのか楽しみにしている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:45	・前は影が反射したことを思い出せるよう、部屋でなにが反射したのかを聞く。	(環境設定) ・テーブルごとの人数を調整しながらグループに分かれる。
9:55	・光でマジックができることを伝え、グループに分かれて実験を行う。 ・「どんな風にみえる?」「どこから見たら消えるかな?」「どうして消えるんだろう」と共感をしながら進めていく。 ・実験の内容と感想を共有し、10円玉が消えた理由を予想し、話し合う。 ・光が水を通るとき、曲がってしまうこと屈折ということ伝える。	(準備物) ・透明コップ ・水 ・硬貨

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・活動の中で準備物や時間に限りがあるため、実践内容を臨機応変に対応する。 ・角度により、見えたり見えなかったりすることに気がつけるよう、分かりやすい言葉掛けできっかけを作る。 ・ホワイトボードにイラストを描き、説明が伝わりやすいようにする。	【子どもの姿】 ・「本当に消えちゃったよ」「なんでないの」と、不思議そうにコップを見つめていた。 ・何故見えなくなるのか、どこからが見えなくなるのか、椅子から立ち上がり自ら動いて観察する姿があった。 【保育者との関わり】 ・「なんでなのか」の問い掛けに対し、分かりやすいヒントを与えることで、自分でひらめき、分かる楽しさを感じられるよう援助をした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・各グループで一つのコップとなったが、硬貨をできるだけ準備し、一人ひとつコップを目の前に置いて実験ができる環境を作ると、より子ども自身で動きやすくなると感じた。	・子どもたちの気づきや問いかけに対して、答えを与えるのではなく、自らひらめいていけるようにする声掛けがとても素晴らしいと思います。 すくわくに関しては子どものひらめきが大切になっていくので、今後もひらめいていけるようにお願いします。

実施クラス	実施日	
5 歳児 はくちょう 組	8 月 6 日 (水)	

● 実施計画

活動テーマ		
野菜ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃から食育や育てている野菜に興味を示し、給食に野菜が出てくると嬉しそうに話し合っている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間		
9:45	- 野菜について知っていることは何かを問いかける。 - どんな野菜があるのか問いかける。 - 子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。 - 野菜の観察をしてみようと提案する。 - 虫眼鏡の使用方法を確認する。	【環境設定】 - 安全に探究できるよう環境を設定する。 - 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 - 正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:00	- 野菜を観察する。 - 何色か、匂いはあるのか様々な問いを聞く。 - 野菜の中を観察する。 - 観察での発見や感想をグループごとに発表する。	【活動使用教材】 - 野菜(きゅうり、じゃがいも、なす、オクラ、ピーマン) - 虫眼鏡 - 野菜の絵本図鑑 - 包丁 - まな板 - ホワイトボード - ホワイトボードマーカー 【事前準備】 - 虫眼鏡の使用方法を設定しておく。 - 種の有無や根菜、葉野菜など比較ができるよう野菜を数種類選定する。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
- 保育者が野菜には何の種類があるかの問いかけに対し、知っている野菜を答え発表する。 - 保育者が包丁を使い切り、断片を見せる。グループごとにそれぞれの野菜を配られ、再度観察をする。 - 振り返りでは観察での発見や感想を友達と共有する時間を設けた。	【子どもの姿】 - 野菜を虫眼鏡で観察すると、「ここに種があるね」「毛がふさふさしてそうだよ」と、虫眼鏡を使用してじっくりと見ていた。観察内容を言葉にし、友だちや保育者に伝える姿も見受けられた。 - 匂いや感触を楽しむ様子があり、「ナスに種が見えた」「きゅうりの真ん中は柔らかいね」と感想を言い合う。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
- 何種類か野菜を準備することで、子どもたちが興味を示した野菜を手に取り、じっくり観察する時間を設けることが出来たので良かった。 - 保育者の予想よりも子どもの興味が大きかった為、今後の活動時間を大幅にとり、興味をさらに引き出せるよう工夫をしていきたい。 - 場合によっては、子ども達自身が包丁を持ち、野菜を切る作業があってもいいと思う。	- 野菜を実際に手に取ってから行うことで子どもたちの気持ちがさらに高まっていったかと思えます。実際に手に取って観察するのと、映像だけですと、気持ちに差がでるかと思えます。とても良かったです。 - 今後の展開として包丁で切る作業とありますが、こちらも実際に切ることで興味関心が高まっていくと思いますので、是非行ってみてくださいね。

実施クラス	実施日	
5 歳児 はくちょう 組	11 月 21 日 (金)	

● 実施計画

活動テーマ		
アート～ふしぎな絵～ 見る向きで変わる絵		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
友だちと並んで絵本を見たり、ポスターをながめたりしながら「こっちから見たらちがうね」と見え方を比べる姿がある。身近な生活の中でも視点を変えることを楽しんでおり、そこから絵や模様の不思議さに関心を広げている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
13:00～	・今月のすくわくプログラムの振り返りを行っていく。 ・トリックアートについて話をし、自分たちで作ることを伝える。 ・完成品を見せ、今からハサミで亀とクジラを切ることを伝える。 ・線の通りに切り、台紙に糊付けをしていく。 ・交互に貼ることで、角度を変えたときの見え方を試す。 ・絵がどう見えているのかをみんなで話し合い、次の探求への意欲に繋げる。	【環境設定】 ・子どもが見本を見やすいように環境を整える。 ・各自が製作しやすいようにスペースを確保する。 ・ハサミを扱う前に、友だちとの感覚を開く。 ・ハサミの注意点を子どもたちと確認してから行うようにする。 ・必要に応じて、補助を行い、作業の進行を見守る。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。 【準備物】 ○描いた絵を貼る台紙(A4の画用紙) ○絵を描くための画用紙(カメとクジラの絵がかいてある紙) 【子ども用】 ○描いた絵を貼る台紙(A4の画用紙) ○絵を描くための紙(コピー紙2枚) ○クレヨン ○ハサミ 【事前準備】 ・見本づくり:あらかじめ見本を作っておく

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・亀の絵とクジラの絵をはさみを使い、上手に切っていた。その後、用意してある台紙に1枚ずつ丁寧に貼り、山折り、谷折りをしていくことで完成させる。 ・見る場所によっては亀が見えたり、くじらが見えたりした。	【子どもの姿・声】 ・「こっちから見ると「クジラに見えるよ。」「こっちは亀だよ。」とたくさん声が上がった。 【保育者との関わり】 ・「どこから見ると何に見えるの？」など出来上がったものに対して声をかけていった。 ・作っていると時には何ができると思う？など、期待が持てるように声をかけていった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・ハサミを使用して亀やクジラを切っていくと、今度はどんなものが出来上がるのかなと楽しみにする声がたくさんあがった。 ・出来上がったものに対して、見る位置によって違った絵が見えることを楽しんでた。	・見る位置によって違う絵になるのは今月のすくわくで行っていたが、それを自分たちが作り出していくのはとても嬉しかったと思います。 ・今後も期待が持てるようなプログラムだと思いますね。

実施クラス	実施日	
5 歳児 はくちょう 組	2 月 3 日 (火)	

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～ お店屋さんごっこで交換を体験		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
数字に興味関心が多く湧いていた為、お金の読み方や単位などに興味を示していた。できる範囲で買い物を意識して家庭でも取り組んでいることを話では聞いており、意識的に興味関心が広がっていた。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00	・前回の活動を振り返り、オリジナルのお金の形や、そのお金で何が買えるか、いくらの価値にするのか考える。 ・買い物の実体験を思い出しながら、欲しいものを全部買えない時のことを考える。 ・お店屋さんごっこでも買えない物がある可能性を伝え、活動につなげる。 ・子どもたちに一定額の模擬貨幣と買い物袋を渡し、買い物ごっこを始める。 ・実施者が店員役となり、子どもたちは限られた予算の中で、欲しい商品を自分で選び、購入する。 ・買った物と買えなかった物を振り返り、発表する。 ・「買ったもののリスト」「買えなかったもののリスト」をホワイトボードにまとめる。 ・なぜ、買ったものと買えなかったものがあるのか、お金の量や商品の値段の意味について考えていく。 ・次回は「必要なもの」と「欲しいもの」について探究することを伝える。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・模擬貨幣(紙幣、硬貨) ・オリジナルのお金 ・模擬商品(玩具、絵カードなど) ・値札 ・買い物用のかご または 袋(人数分) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・模擬商品をさまざまな種類(食品、おもちゃ、文具、日用品など)用意する。 ・商品の種類によって値段の幅に差をつけ、子どもたちが「何を優先して買うか」を考えるきっかけを作る。 ・お金の計算が目的ではないため、値段は子どもたちにとって分かりやすく設定する。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
PREPで行なったお買い物ごっことは異なり、買い物をしてもらうための値段設定から取り組む。いくらなら買ってもらえるのか、その玩具にはどのくらいの価値があるのか自分達で考え値札を作った。4グループを2対2グループずつに分かれて取り組む。 「いらっしゃいませ」と客呼びから行い、買ってもらうためにどんな話をして、買う側は手持ちのお金を考えて買うように行った。	【子どもの姿】 ・「これなら買ってくれそう」「これはここまで高くしたいんだ」とそれぞれ考えている事を言葉にしながら取り組む様子があり、気持ちにのせてお店屋さん側を体験する姿があった。 ・「買うためにはどれ選ぼう?」とお金を数えて計算しようとする様子もあり、お金の大切さを感じていた。 【保育者との関わり】 ・一緒にお金を数え、受け渡しを行うなど計算部分で援助をしながら関わる。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
ただのおままごとにならないよう、お金は限りがあり買うためには何を我慢すべきなのか考えられるよう、言葉かけを意識しながら行なうことが出来たので良かった。次の活動につながるよう、お金がどれ程大切なのか考えられるよう、発展していくことも重要だと感じた。	・値段価格から子どもたちが決めて行っていたのですね。それは本当に勉強になったかと思えます。子どもたちも自分たちで決めて行うのは良い経験にもなり、次に繋がっていきますね。またお金の大切さを知るにも良い機会ですね。

2025年度 7月 はくちょう組わくわく探究ラボ 活動報告

プログラムの目的	1. 自分の考えを持ち、試行錯誤する 2. 正解のない問いに対して、自分なりの答えを見つける 3. 主体的に学びを深めることを楽しむ
活動テーマ	・水ってなに？ ・水はどこからくるの？
活動内容	・水の性質に関わる遊びを通して、「どうして？」「なぜ？」といった疑問を持ち、考える楽しさを味わう。 ・日常で使っている水がどこから来るのか興味を持つ。
活動の様子	・透明コップや水槽を使用し、水を観察しました。 色やにおい、流れを研究することで「スロープを使ったらどうなる？」「スロープつくってみる」「どんなスロープにしよう」と探求心が増していました。 ・絵本や図鑑を使用し、自分たちで水の行方を調べました。「海や川、雨から出来てるんだね」と調べた結果を、友だち同士で共有する姿が見られていましたよ。特に、保育者と一緒に、タブレット端末にて浄水場を調べた際は、「こんな場所があるんだね」とワクワクしていました。



水の流れや仕組みを聞いています。
色が変わると匂いも変わるのか…真剣です。



「すいどう」の絵本を見て、下水道の仕組みを
考えている様子です。



水の仕組みが書かれている図鑑に
興味津々です。



図鑑と一緒に意見を出し合い、
どこで水ができるのかを考えている子ども達。

